

群 教 セ	G02 - 02
	平 17.225集

一人一人が自分の考えをもてる 歴史指導の工夫

－ 地域の史料を読み解く活動の展開を通して －

長期研修員 諸田 義行

（研究の概要）

本研究は、地域の史料を読み解く活動を展開することを通して、小学校の歴史学習において一人一人の児童が自分の考えをもてるようにすることをねらいとしたものである。具体的には、つかむ過程で地域の史料を読み取る。追究する過程で見いだした事実の関連事項を調べる。まとめる過程で史料が伝える事実の意味を考え説明するなど、歴史的事象に対し自分の考えをもてるようにするための指導の工夫を図った。

キーワード 【社会 小 歴史 社会的思考力・判断力 地域教材】

主題設定の理由

群馬県では、平成16年度に引き続き今年度も社会科指導の重点事項として、「調べて考える社会科学学習の充実」を掲げている。これは、教育課程実施状況調査の結果、「自分の考えをまとめ、文章で表現することが苦手」という児童の実態がうきぼりになったためである。

歴史の学習には、多くの児童が興味・関心を示し、意欲的に取り組んでいる。しかし、それは、図書や映像に描き出されている歴史を知識として知りたいというものがほとんどであって、自分自身で歴史の事実を明らかにし、その意味を考えることへと意識が向いているわけではない。また、教科書に掲載されている写真や絵図・想像図・年表・文書資料等を活用し、資料の中に示されている事実を丁寧に読み取ることはできるが、それも、思考・判断力へとうまく結び付いてはいない。歴史的事象を具体的に調べることを通して、児童一人一人が自分の考えをもてるようにするための指導の工夫が求められている。

児童一人一人が自分の考えをもてるようにするためには、身近な地域の歴史を取り上げ、その地域に残されている史料を読み解く活動を展開することが有効であると考えた。読み解くとは、歴史を調べる基本であるべき歴史的資料（史料）に基づいて歴史の事実を理解し、その歴史的な意味を考えることである。地域の史料であれば、児童が身近に感じ、歴史を自分にかかわる問題として意

識することができる。また、史料から見いだした事実を基に、関係する史跡を訪ねたり関係者の話を聞いたりするなど、具体的に調べる活動を展開することも可能である。歴史を自分にかかわる問題として意識し、具体的に調べた結果を根拠に歴史的事象の意味について考えることで、児童は自分の考えをもてるようになる。

以上の理由から、児童一人一人が歴史的事象に対し自分の考えをもてるようにすることが大切であり、その手だてとして、地域の史料を読み解く活動を展開することが有効であると考えた。このことは、歴史への興味・関心を深めるとともに、具体的に歴史を調べる方法を身に付け、歴史や伝統を大切にす気持ち育てるという学習指導要領のねらいに通じるものである。

研究のねらい

小学校の歴史学習において、児童一人一人が自分の考えをもてるようにするために、地域の史料を読み解く活動を展開することが有効であることを明らかにする。

研究の見通し

つかむ・追究する・まとめるの3つの学習過程において、次の1～3の活動を展開していけば、児童一人一人が歴史的事象に対し自分の考えをもてるようになるであろう。

- 1 つかむ過程で、分かりやすい形で提示された地域の史料を、読み取りの視点に沿って読み取る活動を行えば、史料から歴史の事実を見出すとともに、課題意識をもち追究への意欲を高めることができるであろう。
- 2 追究する過程で、見いだした事実の関連事項を調べる活動を行えば、地域の史料が伝える事実とその歴史的な背景を理解することができるであろう。
- 3 まとめる過程で、史料が伝える事実の意味を学習を振り返って考え説明する活動を行えば、過去の事象の歴史的な意味を、調べたことを根拠に考えることができるであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

- (1) 歴史的な事象に対し一人一人が自分の考えをもてるとは

歴史的な事象に対して自分の考えがもてた児童の姿を、本研究では、「史料に基づいて歴史の事実を理解し、その歴史的な意味を調べたことを根拠に考えられている」姿ととらえた。

「史料に基づいて歴史の事実を理解する」とは、史料を基に児童自らが歴史の事実を見だし、歴史的な背景を踏まえて理解することである。事実の理解が、教師の説明、図書や映像に描き出されている歴史像を基にしたのでは、自分の考えをもつことにはならない。歴史の事実を自分なりに理解するためには、歴史を調べる基本である史料そのものを基にして事実を理解することが大切である。ただ、一つの史料が伝える事実は限られているので、関連事項を調べて歴史的な背景を明らかにすることが必要となる。

「歴史的な意味を調べたことを根拠に考えられる」とは、史料が伝える過去の事象が当時の人々の生活や生き方・考え方に与えた影響、社会の発展に果たした役割等を、関連事項を調べる過程で得た知識や経験、見方や考え方を根拠にして考えることができるということである。

- (2) 地域の史料を読み解く活動とは

本研究では、地域を学校区としてとらえる。児童の日常の生活圏であり、互いに共通した生活経

験をもっている。地域をこのようにとらえることは、学習を児童にとって身近なものにするとともに、具体的に調べる活動を容易にし、考えの交流を図る上からも効果的である。

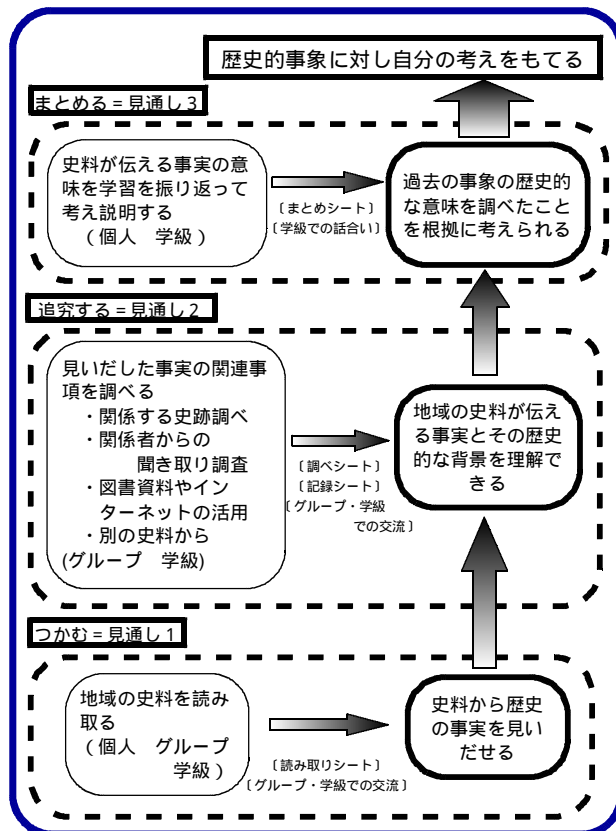
史料とは、過去を伝える歴史的資料のことで、古文書・遺跡・遺物・絵図・写真・金石文・昔の道具等がこれに当たる。史料は、歴史を解明する根本であるが、教材として扱うには困難な点が少なくない。例えば、古文書は読むこと自体が難解であり、遺跡や遺物を観察しても歴史的な見方や考え方が育っていなければそこから事実を見出すことは難しい。しかし、史料は過去を伝える貴重な文化遺産である。提示の仕方を工夫するなどして、その価値を十分に生かしたい。

史料を読み解く活動は、次のように展開する。

史料の読み取りを通して、歴史の事実を見だし、学習課題を設定する。

史料は、古文書であれば読みやすい文章に書き直すなど、児童にできるだけ分かりやすい形で提示する必要がある。また、読み取りの視点を示すなどの支援も必要である。一人一人を読み取った後にグループや学級で交流し合う場面を設け、各自の読み取りを補うとともに、史料が伝える事実の歴史的な意味を明らかにするための学習課題を

図1 研究の基本構想図



設定する。

課題を解決するため、見いだした事実の関連事項を調べる。

このことで、児童は、史料が伝える事実とその歴史的な背景を理解できるようになる。ここでは、教科書や図書資料を活用して基本的な知識を得ることも必要である。関係する史跡を訪ねる、関係者から聞き取り調査をするなど、地域の歴史を調べるよさを十分に生かしたい。調べる活動は、グループの計画を基に分担して行い、調べた結果を交流させることにより共有化を図るようにする。

学習してきたことを振り返り、学習課題として設定した地域の史料が伝える事実の意味を考えて説明する。

このことで、過去の事象の歴史的な意味を、調べたことを根拠に考えられるようになる。

こうした一連の活動を通して、一人一人の児童が、取り上げた歴史的な事象に対して自分の考えをもてるようになるものとする。

(3) 学習シート及び学習ファイルの活用

地域の史料を読み解く活動を効果的に進めるために、次のような学習シートを使用する。

読み取りシート
つむ過程の地域の史料を読み取る場面で使用する。史料から読み取れたこと、疑問に思ったことを記入する。一人で読み取れるように、読み取りの視点を示しておく。
計画シート
史料から見いだした事実の関連事項を調べるための計画を立てる場面で使用する。調べる事項・方法・分担をグループで話し合い記入する。
調べシート
追究する過程の分担して調べたことを各自で記録する場面で使用する。
記録シート
追究する過程の分担して調べたことを交流する場面で使用する。話し合い確認されたことを記入することで、調べたことの共有化を図る。
まとめシート
まとめる過程で使用する。調べ考えてきたことを基に、地域の史料が伝える事実の意味を考えて記入する。

(3) 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	読みやすい文章で提示された地域の史料「戦没記念碑建設の願い」を、読み取りの視点が示された「読み取りシート」を基に一人一人で見取り、グループや学級で交流を図ったことは、旧白沢村と日露戦争にかかわる事実を見いだすとともに、課題意識をもち追究への意欲を高めるのに有効であったか。	「読み取りシート」の分析
見通し2	グループの計画を基に、見いだした事実の関連事項を調べ、グループや	活動状況の観察

各学習シートには、吹き出しを設け、学習したことに対する自分の考えを記入させていくようにする。学習シートは、基本となる史料や調べる過程で集めた史・資料とともに一冊にファイルしていく。ファイルの作成は、学習の履歴を残していくことであり、学習の進展に応じて自分の考えを積み上げていくことである。途中で学習を振り返り、次の学習に生かすのにも効果的である。

2 研究の方法

研究の見通しに基づき、以下の計画で授業実践を行い、検証する。検証に当たっては、全体の傾向を分析するとともに、具体的には3名の抽出児童を設定し、その変容を分析する。

(1) 授業実践計画

教科	社会科
対象	沼田市立白沢小学校6年 29名
単元	世界に歩み出した日本(白沢村と日露戦争)
期間	平成17年10月中旬～下旬(7時間)
授業者	長期研修員 諸田 義行

(2) 抽出児童

A	資料から多くの事実を読み取れる。自分なりに考えることができるが、表面的なとらえ方で終わっていることが多い。自分とかわりの深い地域の歴史を具体的に調べることを通して、歴史的な事象に対する考えをより深いものにさせたい。
B	ひらめきや発想がよく積極的に発表することができるが、考えの根拠が明確でないことが多い。地域の歴史を具体的に調べることを通して、根拠に基づいた考えをもたせたい。
C	歴史への関心が低く、資料の読み取りも苦手な、なかなか自分の考えがもてない。自分とかわりの深い地域の歴史を具体的に調べることを通して、歴史への関心を高め、歴史的な事象に対して自分なりの考えをもてるようにしたい。

	学級で交流を図ったことは、旧白沢村と日露戦争のかかわり・日露戦争や日露戦争に関連した当時のできごとを理解するのに有効であったか。	「調べシート」「記録シート」の分析
見通し3	「まとめシート」を基に、学習を振り返って旧白沢村で日露戦争の石碑が建設された理由を考えてまとめ、学級で話し合ったことは、地域の史料が伝える事実を、調べたことを根拠に考えるのに有効であったか。	「まとめシート」の分析 話し合い場面での発言の分析

研究の展開

1 単元の考察と目標、評価規準

単元名	世界に歩み出した日本(白沢村と日露戦争)			
単元の考察	<p>本単元は、学習指導要領第6学年の内容(1)キを受けて設定したものである。明治中・後期から大正期における歴史的事象を、日露戦争を中心に、地域の目から追究していくように構成した。</p> <p>日露戦争は、条約改正・科学の発展等の歴史的事象とともに、近代国家としての体制を整えてきた日本が、国際社会における地位を向上させるのに大きな役割を果たした事件であった。</p> <p>旧白沢村には、日露戦争にかかわる史料が何点が残されている。本単元の学習に当たっては、その中から、出征した村民の功績をたたえる石碑とその建設を願い出た文書(「戦没記念碑建設の願い」)を中心に取り上げる。旧白沢村からは57人が出征し、4人が戦死している。村では、出征した村民の功績をたたえて石碑を建設した。建設された石碑は、児童がよく目にする所に現存している。また、出征した人の関係者も、児童の身近にいる。関係する史跡を訪れたり、関係者の話を聞くなど、具体的に調べることが可能である。身近な史料を基に具体的に調べることで、児童は、日露戦争という歴史上の大事件を自分にかかわる問題として意識し、考えることができる。</p> <p>日露戦争の勝利は、当時の国際情勢とも大きく関連しており、明治政府の懸案であった不平等条約の改正を成し遂げることに大きく寄与した。また、日本の工業化を進めるきっかけともなった。反面、朝鮮や中国の人々に大きな損害を与え、日本による朝鮮の植民地化へとつながった。このように、追究を広げて関連事項を調べていくことで、児童は、日露戦争を中心に当時の歴史の流れを関連付けて理解し、自分たちの地域や我が国の歴史において日露戦争が果たした役割や影響を考えることができる。</p> <p>以上のように、本単元は、児童一人一人が自分の考えをもてるようにするのに適した単元であると考えられる。</p>			
目標	<p>旧白沢村と日露戦争のかかわりを中心に、明治中・後期から大正期にかけての歴史に関心をもち、我が国の国力が充実し国際的地位が向上していったことを理解できるようにする。</p> <p>地域の史料を読み解く活動を通して、旧白沢村の人々の目から見た日露戦争を中心に、関連する歴史的な事象を調べ、その意味を考える力を育てる。</p>			
評価規準	社会的な事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用 の技能・表現	社会的な事象についての知識・理解
	旧白沢村と日露戦争のかかわりを中心に明治中・後期から大正期にかけての歴史に関心をもち、地域の史料を活用して歴史的背景を探りながら意欲的に調べようとしている。	地域の史料から歴史の事実を見だし、見いだした事実の歴史的な意味を、調べたことを根拠に考えることができる。	地域の史料を中心に、地域に残る関連史跡を調査したり、関係者に聞き取り調査したり、参考図書やインターネットを活用したりして調べ、ノートやワークシートに工夫してまとめることができる。	自分たちの地域が日露戦争という国家の大事件に深くかかわっていたこと、日露戦争における勝利や条約改正・科学の発展などを通して、我が国の国力が充実し国際的地位が向上していったことが分かる。

2 学習と評価の計画(全7時間)

過程	時間	学習活動	具体的評価規準(十分満足できる状況)	評価方法
つかむ	1	史料「戦没記念碑建設の願い」を「読み取りシート」を基に読み取り、旧白沢村と日露戦争にかかわる事実を見いだす。 グループは4～5名の構成で、6グループを編成する。	〔社会的な思考・判断〕 史料に記されている年号・人物・できごとなどに着目し、日露戦争に関係して旧白沢村で起こった事実を読み取っている。 時代と主な関係人物を把握した上で、3つ以上の事実を見いだしている。	「読み取りシート」の記述を分析して評価する。
		学級で共通の学習課題を設定し、その後、グループで話し合っ「計画シート」を基に見いだした事実の関連事項を調べるための計画を立てる。	〔社会的な事象への関心・意欲・態度〕 疑問を基に、史料が伝える事実の意味を明らかにする学習課題を設定し、課題を解決するための調べ計画を具体的に立てている。 図書資料やインターネットから調べるだけでなく、石碑の見学や関係者からの聞き取り調査など、地域を具体的に調べることも含めた計画になってい	グループでの話し合いの様子を観察し、「計画シート」の記述を分析して評価する。

追究する	〔見通し2〕	グループの計画に基づいて、各自で史料から見いだした事実の関連事項を調べる。	〔観察・資料活用の技能・表現〕 見学・聞き取り調査・資料の活用などを通して、史料から見いだした事実の関連事項を具体的に調べている。 計画に基づいて具体的に調べ、文章や図・表などに分かりやすくまとめている。	活動の様子を観察し、「調べシート」を分析して評価する。
		調べたことをグループや学級で交流させて共有を図り、旧白沢村と日露戦争のかかわり、日露戦争と日露戦争に関連した当時のできごとを、「記録シート」にまとめる。	〔社会的事象についての知識・理解〕 旧白沢村と日露戦争のかかわり、日露戦争に関連した当時のできごとを、調べたことを基に理解している。 旧白沢村と日露戦争のかかわり、日露戦争に関連した当時のできごとを、それぞれ3つ以上とらえられている。	グループでの話し合いの様子を観察し、「記録シート」を分析して評価する。
まとめる	〔見通し3〕	「まとめシート」を基に、学習を振り返って旧白沢村で日露戦争の石碑が建設された理由を考え説明する。	〔社会的な思考・判断〕 石碑が建設された理由を、調べたことを根拠にして考えている。 3つ以上の観点から考えられている。	「まとめシート」の記述や話し合いにおける発言内容を分析し評価する。

資料1 地域の史料「戦没記念碑建設の願い」と「石碑」

戦没記念碑建設のお願い

明治三十七・八年の戦争で亡くなった方々を忘れないように記録しておくため、白沢高等小学校の校庭のすみに石碑を建設したいと思っておりますので、「石碑にきざむ文章」と「建設地の使用を認めていただくお願い」「石碑の設計図」をそえて提出しますので、お願いいたします。

明治四十年一月二十四日
白沢村長小林藤次郎

沼田警察署長
警部福地龍造殿

記念碑の題名と碑文の写し

彰忠碑
元帥侯爵大山巖題

明治三十七・八年の戦争に参加した白沢村の男子は五十七人で、戦場で命を失った者は四人です。この戦争は、天皇の軍隊が連戦連勝で、国の力を大いに海外に示しました。これは、天皇の徳によることはもちろんですが、兵士たちが死ぬこともおそれずに国のためにつくしたことにあります。白沢村民は、戦場でなくなった方々をたえ、次の詩を石にきざみます。

妖雲四塞 天地晦昏
奮起渡海 深入遼原
敵我王偵 斃報国恩
遣烈千載 垂範後昆
陸軍少将の一兵士が詩文を選び書きました。



研究の結果と考察

1 分かりやすい形で提示された地域の史料を、読み取りの視点に沿って読み取る活動を行ったことは、史料から歴史の事実を見いだすとともに、課題意識をもち追究への意欲を高めるのに有効であったか

第1時は、地域の史料である「戦没記念碑建設の願い」の読み取りを行った。事前に石碑の見学を行っていることから、児童は興味をもって史料を読み始めた。初めは、視点が定まらず漠然とした読みになっていたが、「読み取りシート」を提示したことにより、「いつのことか」「どんな人

がかかわっているか」「どんなできごとがあったか」など、視点に沿って史料を読み取り、シートに書くことができた。「読み取りシート」に書かれたことを、見いださせたい事実としてあらかじめ設定しておいた項目を基に整理すると、表1のようになる。(1)いつのことかに関しては、石碑の建設を願い出た年に目を向けた児童と戦争があった年に目を向けた児童に分かれたが、明治後期のできごとであることは把握できたと言える。(2)どんな人がかかわっているかに関しては、主要な関係人物をおおむね把握できている。地元白沢の人々がかかわったできごとであることに目が向けられたと言える。(3)どんなできごとがあったか

表1 史料から見いださせたい事実と
見いだせた人数(29人)

見いださせたい事実	人数
(1)いつのことか？	
明治40年(石碑の建設を願い出た年)	18
明治37・38年(戦争があった年)	11
(2)どんな人がかかわっているか？	
白沢村長(石碑の建設を願い出た人)	24
沼田警察署長(願いを受けた人)	23
白沢村の男子(戦場に行った人々)	15
(3)どんなできごとがあったか？	
a. 旧白沢村からこの戦争に57人が出征し、4人が戦死した。	14
b. 村では出征した村民の功績をたたえ石碑の建設を願い出た。	25
c. 石碑は小学校の校庭に建設することになっていた。	12
d. 兵士たちは命をかけて国のために尽くした。	14
e. 明治37・38年に戦争があった。	9
f. この戦争に日本は勝った。	8

に関しては、史料の中心的内容である「b. 村では出征した村民の功績をたたえ石碑の建設を願い出た」ことを中心に複数の事実を見いだすことができた。(1)～(3)のいずれとも空欄のままであった児童はおらず、おおむね満足以上と評価できる。十分満足できる状況と評価する「時代と主な関係人物を把握できた上で3つ以上の事実を見いだせた」児童は、約半数の15名であった。その後、グループや学級での交流を図ったことで、全員の児童が個別での読み取りの不足を補い、時代・関係人物を正しく把握し、a～fの事実を見いだすことができた。

抽出児童Aは、学習シートに従って時代と関係人物を把握した後、明治37・38年の戦争に旧白沢村の男子57人が出征し4人が戦死したこと、兵士たちは死ぬこともおそれずに国のために尽くしたこと、出征した村民のために村で石碑の建設を願い出たこと、この戦争に日本が勝利したことなど、数多くの事実を見いだすことができた(資料2)。

抽出児童Bは、学習シートにはあまり記入できていなかったが、グループの話合いの中では、積極的に発言していた。シートには十分に書いていなかったものの、史料を細かく読み取れていることが分かる意見が多く聞かれた。

歴史への関心が低かった抽出児童Cは、自分たちの地域の歴史が書かれている史料に興味をもち、学習シートに示された視点に沿って一生懸命に読み取っていた。そして、時代と関係人物を把握し、戦争に参加した旧白沢村の男子が57人で戦

資料2 Aの「読み取りシート」

【自分で読み取ったこと】	【みんなの意見から気づいたこと】
(1)いつのことですか？ 明治四十年一月二十四日	1904・5年
(2)どんな人がかかわっていますか？ 村長・小林 藤次郎 ・警部・福地 龍造 ・天皇 白沢の男子(57人)	元中侯爵... 大山 巖 陸軍少将
(3)どんなできごとがありましたか？ ○単独で己を名乗る石碑の建設 ○明治37・38年の戦争に行かされた男子が57人いた。 ○戦争で4人死んでしまった。 ○この戦争で天皇の運命が運命連勝で「国の力を海外に示した」 兵士が死ぬこともおそれずに「国のために」 つくした。 ○白沢村民は、戦争で亡くなった方 とたたえて、石碑を建てた。	○戦争があった ○陸軍の兵士が書いた代表の詩 日露戦争
(4)疑問に思ったことや調べてみたいことはありますか？ 上のは、題名以外が2の場 戸名がかななのか疑問に思た	

考えたことや感じたこと
兵士たちは死ぬことをおそれずに
国のためにつくしたことがたいと
思いました。

ちょっと難しいけど、じっくり読んでみよう。

資料3 Cの「読み取りシート」

【自分で読み取ったこと】	【みんなの意見から気づいたこと】
(1)いつのことですか？ 明治四十年一月二十四日 (1907)	明治三十七・八年 (1904・05)
(2)どんな人がかかわっていますか？ 小林藤次郎(白沢村長) 福地龍造(警部)	大山巖 男子57人 天皇
(3)どんなできごとがありましたか？ ○戦争に参加した白沢村の男子は57人で、戦場で命を失った者は4人いた。 ○連戦連勝	○兵士たちが死ぬこともおそれずに国のためにつくした。 ○戦争で戦った参加した陸軍の兵士が、いくつか詩が書いた詩の代表作。
(4)疑問に思ったことや調べてみたいことはありますか？	○なぜ、そこに？ 平和公園にあるのか。 ○なぜ、くわいのとしの人が戦争に行かされたのか。 ○なぜ、白沢高等小学校の校庭のみに石碑を建設しようとしたのか。

考えたことや感じたこと
昔の人は、尊厳があって
すごいと思った。

ちょっと難しいけど、じっくり読んでみよう。

死者が4人であったこと、この戦争に日本が勝利したことの2点の事実を見いだした。グループでの交流の中で同じグループのAの発表を聞いたCは、みんなの意見から気付いたことの欄に、兵士たちが死ぬこともおそれずに国のために尽くしたという事実を追加した。個別では十分読み取れな

表2 史料の読み取りを通して児童がもった
主な疑問と人数(29人)

疑問	人数
なぜ石碑を建てたのか。	14
なぜ戦争に参加した人や亡くなった人の名前を残しておくのか。	2
学校のすみに建設すると書いてあるのになぜ平和公園にあるのか。	8
なぜ石碑をつくるのに警察署長の許可が必要なのか。	6
なぜ57人もの男子が戦争に行ったのか。	5
誰が戦争に行ったのか。	3
この戦争はどんな戦争だったのか。	6

かったが、グループでの交流を通して、読み取りを深めることができたと言える(資料3)。

史料の読み取りを通して、児童は様々な疑問をもった(表2)。Cも、グループでの交流の後、3つの疑問を書いている。疑問をもつということは、「なぜだろう。調べてみたい。」という具合に、追究への意欲につながる。これらの疑問を基に学級全体で整理・検討し、地域の史料が伝える事実の意味を明らかにするための学習課題「旧白沢村で日露戦争の石碑が建設されたのはなぜか」が設定された。

地域の史料として身近な史跡にかかわる史料を読みやすい文章に書き直して提示したことにより、探究への興味・関心を高めることができた。そして、「いつのことか」「どんな人がかかわっているか」「どんなできごとがあったか」などの視点を示した「読み取りシート」を活用したことにより、視点に沿って史料を読み取り、自分自身で歴史の事実を見いだすことができた。Cの例に見るように、個別で見いだせなかった事実は、グループや学級での交流を図ることで補うことができた。さらに、疑問に思ったことを基にして、史料が伝える事実の意味を明らかにするための学習課題を設定することができた。

以上のことから、分かりやすい形で提示された地域の史料を、読み取りの視点に沿って読み取る活動を行ったことは、史料から歴史の事実を見だし、追究への意欲を高めるのに有効であったと考える。

2 見いだした事実の関連事項を調べる活動を行ったことは、地域の史料が伝える事実とその歴史的な背景を理解するのに有効であったか

A・Cの属するグループでは、石碑が建設され

表3 A・Cのグループの調べる計画

調べる事項	調べ方
日露戦争について <ul style="list-style-type: none"> ・戦争した国 ・戦争で活躍した人 ・どんな戦争だったか ・なぜ戦争は起きたか ・戦争が行われた場所 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や図書室の資料 ・インターネット
旧白沢村と日露戦争のかかわり <ul style="list-style-type: none"> ・戦った57人の名前 ・なぜ国のために全力を尽くしたのか ・日露戦争のころの旧白沢村の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・石碑の見学 ・関係者へのインタビュー ・地域の史料
日露戦争に関係したできごと	<ul style="list-style-type: none"> ・年表や教科書図書室の資料

た理由を明らかにするために、表3のような計画を立て、史料から見いだした事実の関連事項を調べていった。

Aは、日露戦争の原因・主な戦場・活躍した人物などを、教科書や図書資料・インターネットを中心に調べた。その結果、旧白沢村の人たちが参加したこの戦争は、近代化の道を歩み出した日本が列強の一つであるロシアを相手に戦った大事件だったことを理解することができた。また、戦争では多くの戦死者を出すなど被害が大きかったことを知り、4人の村民が命をおとしたのも、こうした激しい戦争だったためであることが理解できた。これらのことを「調べシート」にまとめたAは、吹き出しの中に「白沢の人たちがこんな重要な戦争に参加していたのでびっくりした。日露戦争で日本がロシアに勝ったのはすごいことだけど、大勢の人が死んでしまった。白沢の人も死んでいるので悲しいと思った。」と感想を書いている。

Cは、旧白沢村と日露戦争とのかかわりを、白沢地区に残されている史料を基に調べた。戦場に行った兵士が白沢の両親に書き送った手紙や戦場での状況を書き留めた日記帳などの実物の史料を提示したので、多くの児童が関心をもって見ている。100年前の戦争の当事者が残した史料であることに、写真やコピーとは違った迫力を感じていたようである。Cは、特に戦場からの手紙に強い関心を示していた。文字や表記が難しいので内容を読み取ることは困難だが、ところどころに自分でも読める文字を発見し、興味をもって拾い読みしている様子が見られた。主な史料は読みやすい

文章に書き直してプリントに提示し、児童が内容を調べられるようにした。あるグループの児童は、それらの史料の中から、村長を会長とした「白沢奨武会」が結成され、出征家族への支援活動を行っていたことを調べた。戦場へ行った人たちだけでなく、村に残った人たちも戦争にかかわっていた事実をとらえ、理解を広げることができた。

Bは、出征した人や戦死した人を調べるため、石碑を見学した。出征した57人の氏名を確認すると、名字別に整理してどの地区の人かを予想していた。さらに、戦死した4人の戦死場所にも関心を示して調べていた。戦死者の氏名を知ったBは、数名の児童と一緒に、休日を利用して一人の戦没者の遺族へ聞き取り調査を実施した。軍隊手帳や感謝状・勲章などを見せていただきながら、話を伺うことができた。出征した方は、21歳で軍隊に入り、23歳の時に日露戦争に行き旅順の激しい戦闘に加わった。そして、24歳という若さで亡くなった。利根郡の戦死者第一号だったので、葬儀が大規模に行われた。参加した児童は、こうした話を興味深く聞いていた。聞き取りの内容を「調べシート」にまとめたBは、吹き出しの中に、「戦争で死んだ人のことや家族の思いがいろいろ分かった。昔は自ら戦争に行くなんてすごいと思った。今の自分たちにはそんな勇氣はないと思う。」と感想を書いている。Bの調べ活動を追ってみると、一つの文書史料から見いだした事実が、関連事項を調べることで次第に広がりをもって理解されていったことが分かる。

各自が分担して調べたことは、グループでの交流を図りながら「記録シート」にまとめられ、全体像として理解されていった。さらに、学級での交流を図る中で、理解は深められた。教科書や図書資料・インターネットから日露戦争について調べていたAも、友達の発表を受けて、「白沢の人たちは、戦争に行った人をすごくたたえていたことが、石碑を建てたことや、戦死した人のそう式で鍵屋さんちから雲谷寺まで行列が続いたという話を聞いて分かった。」と「記録シート」の吹き出しに書いている。自分で直接調べた内容ではない旧白沢村と日露戦争とのかかわりについて、理解を広げていることが分かる。

以上のように、見いだした事実の関連事項を調べる活動を行ったことは、地域の史料が伝える事実とその歴史的な背景を理解するのに有効であったと考える。

3 史料が伝える事実の意味を、学習を振り返って考え説明する活動を行ったことは、過去の事象の歴史的な意味を、調べたことを根拠に考えるのに有効であったか

第7時は、石碑が建設された理由を、これまでの学習を振り返って考えまとめた。「まとめシート」への記入状況を、整理したのが表4である。

表4 石碑の建設理由として示された主な考えと人数(29人)

考 え	人数
a.命をかけて戦い戦死した人たちを忘れないように。	22
b.国のために戦ってくれた人たちへの感謝の気持ちがあったから。	21
c.後の時代の人たちに国のために戦った人たちのことを伝えるため。	10
d.これからは悲惨な戦争が起きないようにと思ったので。	6
e.当時の日本にとってとても重要な事件だった日露戦争で大きな働きをした人たちなので。	4

「a.命をかけて戦い戦死した人たちを忘れないように」及び「b.国のために戦ってくれた人たちへの感謝の気持ちがあったから」と考えている児童が多かった。「c.後の時代の人たちに国のために戦った人たちのことを伝えるため」というのは、石碑を見る人へ与える影響という側面からの考えである。「d.これからは悲惨な戦争が起きないようにと思ったので」というのは、石碑には平和への願いがこめられているという考えである。これ以外にも、「もし戦争が起きた時の心構えとして」「未来をいい世の中にするために戦ったから」など、様々な考えが示されている。理由を一つも考えられなかった児童はいなかったことから、全員がおおむね満足以上であったと評価できる。十分満足できる状況と評価する「3つ以上の観点から考えられた」児童は16人であった。「まとめシート」を発表し合った後、論点を絞って深めるための話し合いを行った。友達との意見交換を通して、児童の考えはさらに深められた。

Aは、石碑が建設された理由を、これまでに学習してきたことを生かして多面的に考えることができた(資料4)。これらは、日露戦争について自分たちで調べたことや旧白沢村と日露戦争のかかわりに関してほかのグループから学んだことを根拠に考えたものである。発表場面では、「勉強を通じて戦争のことを知らせるため。校庭にある


資料4 Aの「まとめシート」

白沢村では、なぜ日露戦争で亡くなった人のために石碑を建設したのか？

戦争に行きかかっていた人が、戦争で亡くなった人たちのために、国のためにつくったが、戦争に行きかかっていた人の家族のために、石碑を建てて、戦争のことを後世に伝えるため。

考えたことや感じたこと

石碑を建てたのは、戦争で亡くなった人たちのために、国のために、戦争のことを後世に伝えるため。石碑を建てたのは、戦争で亡くなった人たちのために、国のために、戦争のことを後世に伝えるため。



とそれを使って学習できるから。」という意見を出した。石碑を見る人に与える影響という側面から考えた意見である。これに対するBの反対意見、「これは、戦争に行った人たちのためなので、小学生が学習するためにつくられたのではないと思う。」に対しては、「それだったら、最初から小学校に建設しようとは思わなかったと思う。小学校に建設したんだから、やっぱり小学生に何かを伝えたかったんだと思う。」と反論した。友達との意見交換を通して、自分の考えをより深めていることが分かる(資料6)。歴史的事象のとらえ方が表面的なところで終わってしまいがちだったAも、身近な地域の歴史を具体的に調べた今回の学習を通して、自分の考えをより深いものにすることができたと言える(資料6)。

Bは、初めは、「代表で戦争に行き、がんばって戦ったので、そのことを残しておくため」としか書いていなかったが、個別支援の中で「戦場で戦った人の遺族の方に話を聞いたことを思い出

資料5 Bの「まとめシート」

白沢村では、なぜ日露戦争で亡くなった人のために石碑を建設したのか？

代表で戦争に行きかかっていた人が、戦争で亡くなった人たちのために、国のために、戦争のことを後世に伝えるため。


自分たちの意志でがんばって国のために戦ったから(自分たちの死も覚悟して)に

戦争に行きかかっていた人たちの勇気を伝えるため。

旅順(旅順)という戦いが激しいところだったから。

考えたことや感じたこと

自分たちでは日露戦争などは異次元に激しい戦いだったから、自分たちの意志でがんばって国のために戦ったから、旅順という戦いが激しいところだったから、自分たちの勇気を伝えるため。



資料6 深めるための話し合いの様子

(前略)

T(教師): 出された意見について、検討していきます。意見を出してください。

S(児童)1(B): A君の意見の「小学生が石碑を見て戦争のことを学習できるように」に反対です。これは、戦争に行った人たちのためなので、小学生が学習するためにつくられたのではないと思います。

T: なるほどね。A君、どうですか。

S2(A): それだったら、最初から小学校に建設しようとは思わなかったと思う。小学校に建設したんだから、やっぱり小学生に何かを伝えたかったんだと思います。

T: ほかの人も考えてください。どうですか。

S3: B君の意見に賛成で、これは亡くなった方をたたえるための石碑だと思う。

S4: B君と同じで、これは学習のためではなく、亡くなった人の家族のためのものだと思います。

S5: 両方あるような気がするなあ。

S6: B君とA君の両方に賛成で、B君の家族への思いというのもある。戦争のことを知る時に、資料として使ったりするように。

S7: 今の意見に賛成で、戦争に行った人たちのためでもあるし、それを小学生が資料として学習し、戦争のことを学んでほしいから。

T: 両方あるのではないかとということですね。

(石碑建設の理由には、出征兵士・戦没者への感謝という意味と、見る人へのメッセージという意味との両方があることを確認。) それでは、見る人に伝えたい思いについて考えましょう。

「子どもたちに戦争に行った人たちの手本にしてほしい」という意見と、「これからはこんな悲惨な戦争が起きないようにという願い」があったという意見があります。逆のとらえ方ですね。どう考えますか。

S: えーつ。(しばらく考える)

S3: 「これからは戦争が起きないようにとの願い」に反対で、これから戦争があった時は、日露戦争に行った人たちのように、勇気を出して戦ってほしいという思いだと思います。

T: 君は、どうですか。

S8: 戦争には、だれでも行きたくないと思うから....

T: 戦争にはだれでも行きたくないから、だから、平和を願ったという考えだね。

S7: 「子どもたちに戦争に行った人たちの手本にしてほしかった」に反対で、全国でたくさんの人たちが死んだ悲惨な戦争がもうなくなるようにと願ったと思います。

(後略)

て、もう少し考えを深めてみよう。」と投げかけたところ、「自分たちの意志でがんばって国のために戦ったから」「旅順という戦いが激しいところでがんばったから」と書き加えた。聞き取り調査の結果を根拠にして、石碑が建設された理由が

自分なりに考えられている。ひらめきや発想はよいが考えの根拠が明確でないことが多かったBも、地域の歴史を具体的に調べた今回の学習を通して、根拠に基づいて考えられるようになったと言える。最後に、「自分たちでは日露戦争など関係ないことだと思ったけど、意味深く調べてみると、関係が結構あることが分かった。あの石碑も、遊んでいるとき見るとただの石みたい感じていたけど、すごいものだ調べて知った。」と吹き出しに書いている(資料5)。石碑を調べたり、聞き取り調査をしたりして、身近な所に歴史が刻まれていることに気づき、歴史的事象を自分にかかわる問題として意識できるようになっている。

深めるための話合いの場面では、自分の考えを積極的に発言する児童の姿が見られた(資料6)。資料6に見られるS8は、聞き取り調査に参加した児童の一人である。彼の石碑のメッセージは平和への願いだという考えは、調査の後にもった「戦争なんかやらない方がいいと思うけど、やらないと昔は国がよくならなかったからしょうがないのかな。」という問題意識を発展させたものである。同じく石碑建設の意味を平和への願いととらえたS7は、図書資料から日露戦争の被害の大きさを調べた経験を基に考えている。ここからも、地域の史料が伝える事実を調べたことを根拠に考えている児童の姿を確認することができる。

授業を通して、「日本が戦争に勝ってよかった」という考えが多かったため、最後に、「日露戦争の勝利が日本にとってよいことだったと言えるのだろうか」という問題を投げかけて授業を終了した。Cは、これまでの学習の中で日本が戦争に勝ってよかったという考えを示していたが、この投げかけを受け止めて改めて考えた。最後に、「白沢の人たちが日露戦争に参加したのはびっくりした。石碑を建てたのは、白沢の村民は、それだけ戦争に行ってくれた人たちに感謝しているからなのかなと思った。最初は日本が勝ってよかったと思っていたけど、そんなに簡単な問題ではないなあと思えてきた。」と吹き出しの中に書いている。歴史への関心が低く自分の考えをなかなかもてなかったCも、地域の歴史を具体的に調べた今回の学習を通して、歴史的事象を身近な自分にかかわる問題として受け止め、自分なりの考えをもてるようになったと言える。

以上のように、地域の史料が伝える事実の意味を、学習を振り返って考え説明する活動を行った

ことは、過去の事象の歴史的な意味を、調べたことを根拠に考えるのに有効であったと考える。

研究のまとめと今後の課題

本研究を通して、児童に次のような変容が確認されたことから、児童一人一人が歴史的事象に対し自分の考えがもてるようにするために、地域の史料を読み解く活動を展開することが有効であったと考える。

- ・身近な地域の史料を基に調べ考えたことにより、歴史への興味・関心が高まった。
- ・史料を読み取ったり関連事項を調べたりすることで、史料に基づいて歴史の事実を理解できるようになった。
- ・見学や聞き取り調査など具体的に調べる活動へと追究を導くことで、史料が伝える過去の事象の歴史的な意味を調べたことを根拠に考えられるようになった。

活用した学習シートは、史料を読み取ったり、史料が伝える事実の意味を学習を振り返って考えまとめたりするなど、史料を読み解く活動を展開する上で効果的であった。

グループや学級で交流を図る場面を設定したことは、個別の学習を補い、自分の考えを広げたり深めたりするのに効果的であった。

児童が自分の考えがもてたことを、主に学習シートに書かれた文や話合い場面での発言内容から見取ったが、表現方法を多様化させることで、一人一人の児童の考えをより豊かに引き出すことができるのではないかと考える。

史料は、様々な時代背景の中で作成され残されてきたものである。当時の社会情勢や人々の考え方が反映されており、現在の価値観とは異なる場合もある。史料を教材として扱うに当たっては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童の発達段階を考慮することが必要である。

主な参考文献

- ・北 俊夫 著 『新学力観に立つ社会科の理論と方法』 明治図書(1995)
- ・北 俊夫 編著 『新学習指導要領を生かした社会科の授業』 小学館(2000)

(担当指導主事 飯沼 良夫)

